

# 黒田家譜 黒田続家譜

『黒田家譜』・『黒田続家譜』は、福岡藩が藩主黒田家の歴史を編さんした書物です。なかでも『黒田家譜』は、主に藩祖孝高（官兵衛・如水）・初代長政の事績を、『黒田続家譜』は2代忠之の事績を収めたもので、その後、幕末期まで続く黒田家の修史事業の嚆矢に位置づけられます。

『黒田家譜』・『黒田続家譜』の編さんには、藩儒・貝原益軒とその高弟・竹田定直（春庵）が深く関わりました。『黒田家譜』は、寛文11年（1671）に貝原益軒に編さんの命が下り、延宝6年（1678）に完成、上呈されました（延宝本）。その後3度の改訂があり（貞享本・宝永本・延享本）、このうち貞享本から宝永本への改訂作業に竹田定直が加わっています。『黒田続家譜』も貝原益軒と竹田定直の手になり、宝永3年（1706）に「忠之記」全4巻が完成しました。その後、徳川幕府に対する忠之の大きな功績であった「天草・島原の乱」についての増補が命じられ、後に6巻本として再編されます。

ここで紹介する『黒田家譜』16巻・『黒田続家譜』6巻は、竹田定直を祖とし、代々福岡藩儒をつとめた竹田家に伝わる資料です。昭和46年（1971）に竹田家より福岡県文化会館に寄託され、現在は福岡県立図書館が保管する「竹田文庫」の一部であり、福岡県有形文化財に指定されています。

この『黒田家譜』16巻は、「如水遺事」・「長政遺事」を含む15巻本に、「黒田系譜」・「黒田家旗幟」の1巻を首巻に加えた全16巻構成の宝永本です。上質の和紙に丁寧な筆致で記されていますが、付紙や朱書・墨書の追筆、切り取りや継ぎ貼りなど改訂・増補の跡が多くみられます。貞享本の清書本を、宝永本作成時に草稿として使用したとも考えられる、とても貴重な資料です。

『黒田続家譜』6巻は、寛永元年（1624）～承応3年（1654）を対象としていますが、全6巻中、第2～5巻の4巻を寛永14～16年の「天草・島原の乱」の記述が占めるという構成になっています。追筆の修正箇所も多く見られますが、編集を担当した定直の手になる、定本に近いと考えられる資料です。

九州歴史資料館学芸員 一瀬智

上記は平成26年3月現在の内容（記述）です。

竹田文庫は令和5（2023）年3月に大野城市へ寄贈されました。